



Japan Intellectual Property Association

理事's eye 新コーナー

伊東 正樹 日本知的財産協会 副理事長/
株式会社豊田自動織機 知的財産部 部長

わが社のこだわり

AGC株式会社

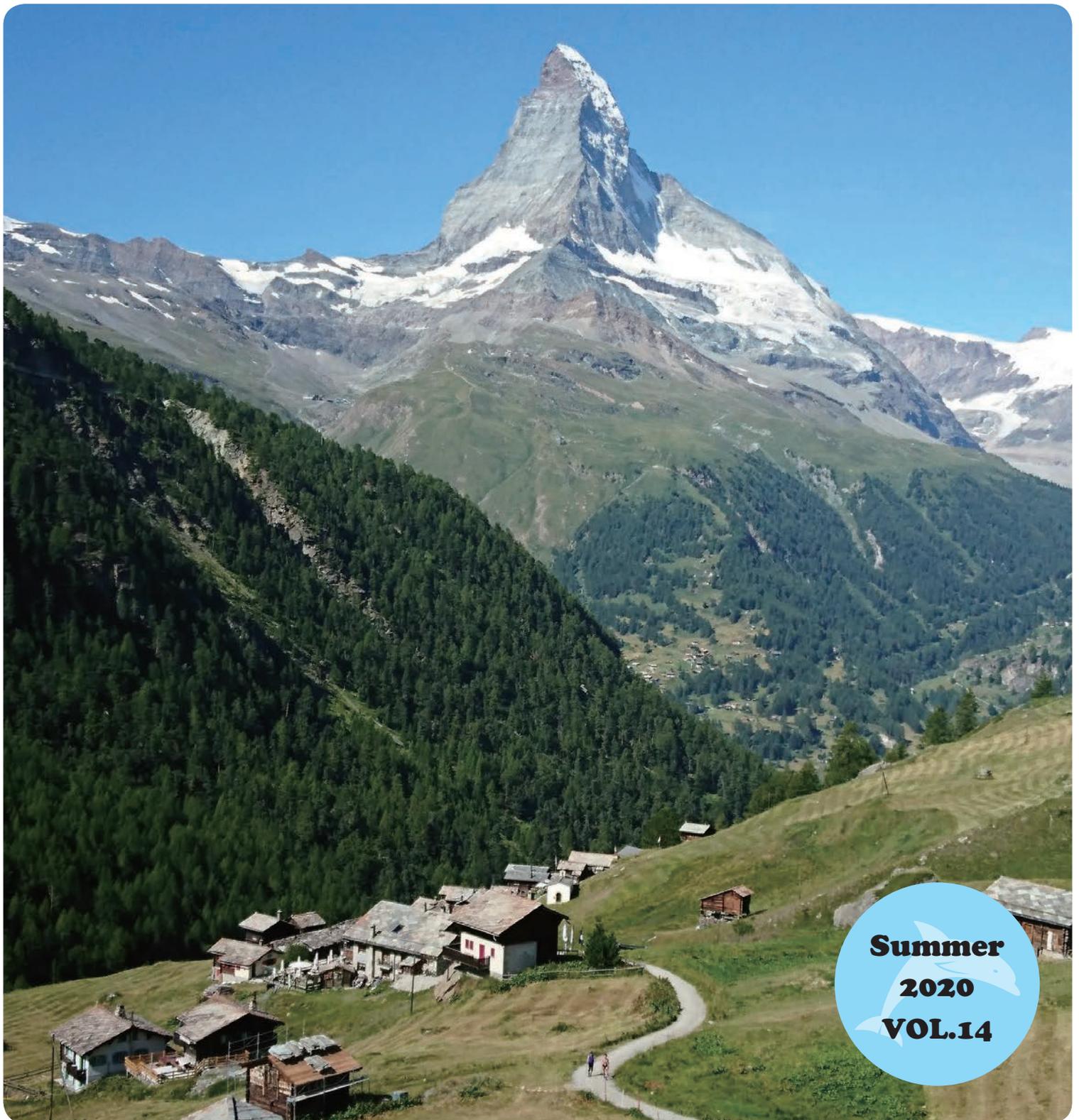
“Your Dreams, Our Challenge”
人々の想いの先、夢の実現に挑んでいきます。

ZOOM UP

関東電気機器部会

JIPA通信

オンライン研修の紹介



Summer
2020
VOL.14

JIPA理事は協会の責任者として、国内外の動向や課題を大局的に注視し、多種多様な会員の声を広く聞いて、政策に反映していく。

JIPAの理事は2018年度から、副理事長は翌年度から務めています。それ以前は国際委員会の副委員長や業種別部会・地区協議会の幹事など様々な立場で関わってきましたが、理事となると、やはり扱う事項が会務全般にわたり、視点が大きく変わります。

JIPAは一般社団法人ですが、その理事というのは、会社における取締役に相当し(英語では同じDirector)、理事会で意思決定を下したり、他の理事の職務執行のチェックをしたりすることが重要な役割となります。副理事長も理事職に変わりはなく、理事長の補佐という役割も持ちます。理事会では毎回多くの審議・報告事項が委員会やプロジェクト、事務局から上程されますので、理事会に諮る前に少人数の正副理事長会で協議します。

私は企業の知財部長でもありませんが、理事の立場では当然ながら個社を超えて、会全体の意見を聞いて対応する必要があります。私は東海地区協議会と知財問題研究会を担当しており、そこでは大企業から中小まで様々な方々と直接対話をする機会がありますが、最近

は会員数も増えて、知財のあり方・考え方が多様化しているように思います。

昔なら、知財の仕事といえば出願や調査、訴訟といった専門業務が重視されていたのですが、最近は事業がモノからコトへ変化し、異業種の参入、AI・IoTの発展、新興国の台頭など環境がダイナミックに変化する中、経営における知財の位置付けが変わり、ビジネスそのものに関わることも以前より増えてきました。一方で、知財担当者が少ない企業やスタートアップも増えており、ここでは少ないリソースを如何に活用して効果を上げるか、虎の子の技術をどう守るかという課題にも直面しています。

そういった様々な立場や課題を広く踏まえて、提言や方針を決める場合、多くの意見を聞いて纏めるのも難しくなっているように感じます。もともと、これは委員長やプロジェクトリーダーの方々の方が大変だと思いますが、広く意見を集約して、専門的にしっかりと纏めてくださるのでありがたく思います。

「JIPA理事としての視点」と 「知財部門のリーダーとしての視点」 2つの視点で深掘りする知財業界の今



伊東 正樹 日本知的財産協会 副理事長
Masaki ITO 株式会社豊田自動織機 知的財産部 部長



知財部門のリーダーは事業や経営との連携を深め、相手の立場で物事を捉えて戦略を策定する。基盤である「知財人材」は将来のあるべき姿を見据えて育成する。

私は(株)豊田自動織機の知財部長としてマネジメントをしています。当社は十大発明家である豊田佐吉を社祖とし、トヨタグループのルーツとして、繊維機械に始まり、産業車両、物流、自動車関連など多様な分野に事業を拡げて拡大してきました。90年代からはグローバル化を積極的に進め、大半を海外で売上げています。

当社の社是である豊田綱領の中に「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」というのがあり、創業時より発明を推奨して事業戦略に活用してきました。知財部は社内全体に対して知財サービスを総合的に提供していますが、今は事業が多様多様になり、それぞれの事業体が別会社と言えらるる内容も考えも異なるため、個別に知財戦略を策定しています。例えばある事業は市場競争が激しく、技術の囲い込みや活用を通じて優位性を確保することが求められますし、別の事業は自動化・デジタル化など拡大する技術領域に対して社外との連携やオープン化を展開するなど、それぞれに固有の課題があります。従って、各事業や経営層との連携を密にし

て、相手の立場で状況を詳しく理解する必要がありますが、そういった姿勢は理事と共通するものがあります。一方で、知財人材のベーススキルは共通していますので、一貫した育成計画を立てて、社外の研修や海外駐在、担当者のローテーションなどを実施していますが、JIPAの研修や委員会も貴重な経験の場として全員の育成に多く活用しています。また、今後は知財部のあり方も変化し、情報発信や提言などが増えていくと考えますので、加えて分析力やビジネスリテラシーの強化なども進めています。

昨年は豊田自動織機2030年ビジョンが策定され、その中で社会貢献とともにSDGs達成への貢献が謳われていることもあり、今年からWIPO GREENにパートナーとして参画することにしました。すでに208件の特許をデータベースに掲載していますが、今後も自社開発した技術をオープン化させ、知財側面から社会課題の解決にも貢献していきたいと思えます。

わが社のこだわり [AGC株式会社]

“Your Dreams, Our Challenge” 人々の想いの先、 夢の実現に挑んでいきます。

武田 泰治 Yasuharu TAKEDA

日本知的財産協会 常務理事
AGC株式会社 知的財産部 部長


Your Dreams, Our Challenge


1907年、AGC(当時旭硝子)の創業者は「易きになじまず難きにつく」という想いを胸に、日本の人々のよりよい暮らしと産業発展の実現に向けて、板ガラスの国内製造に挑戦しました。その精神を受け継ぎ、「社会の役に立つものをつくること」を活動の原点としています。

2018年、「ガラスに限らず、多様な素材技術を駆使してグローバル社会に対して価値を創造していく」という想いを込め、旭硝子からAGCへと社名変更しました。これを機に、ブランドステートメント “Your Dreams, Our Challenge” を策定。このフレーズに込められた想いは、創業者の想いにびたりと重なります。これをAGCと世界をつなぐコミュニケーションの軸として、次の100年に向けて新しい価値やイノベーションを創出していきます。

お客様との協創

私たちが掲げる “Your Dreams, Our Challenge”、このYour Dreamsは、「世界中の人々、社会、そしてお客様の夢」という意味が込められています。近年、当社のビジネスは、従来のBtoBからBtoBtoCへと大きく転換しています。例えば、自動車用窓ガラスを開発する場合も、当社はお客様である自動車メーカーがどんな製品を求めているかだけでなく、クルマのユーザーである一般のお客様が何を求めているかまで理解しなければ、真に価値のある製品は提供できません。そんなBtoBtoCの視点から提案・開発して実用化した製品が紫外線カットガラス(UVベールPremium™)や紫外線&赤外線カットガラス(UVベールPremium Cool on™)などのヒット商品です。こうしたエンドユーザー志向の素材開発を加速させていくには、日々エ

ンドユーザーと向き合っているお客様との協創が不可欠です。

このような中、技術イノベーションを加速させていくために、研究開発体制の強化に取り組んでおります。具体的には、AGC横浜テクニカルセンター(旧京浜工場)内に建設する新しい研究開発施設に開発の機能を集約し、開発の初期段階から各部門がシームレスに連携・連動して開発を進めることにより、開発スピードを一層向上させることを目指します。それと同時に、お客様や大学、公的研究機関、技術提携先など、社外とのオープンイノベーションのための協創空間を構築することを計画中です。

AGCの知財活動

オープンイノベーションにより、外部の技術、知恵、アイデア等を積極的に取り入れることによって、開発を加速することが可能となります。オープンにする一方では、クローズにして守ることも大切です。知的財産(知財)は、“オープン”という場面でも、“クローズ”という場面でも、重要な要素になります。

知的財産部(知財部)のミッションは継続的な利益創出に知財の力で貢献することです。

知財権は排他権ですが、ライセンスし合うことで技術の相互利用ができ開発を加速できます。知財はその活用次第で事業戦略の成否を左右する重要な資源です。

知財部員は、担当する事業部門における発明発掘から出願・権利化の活動、取得した特許権の活用、他社特許の調査、問題となる他社特許の検討、契約のチェックなど、一連の知財活動に関わっていますが、今後は、戦略の策定と実行がより求められていくと考えています。

事業を取り巻く環境は非常に速いスピードで変化しています。求められる知財活動も刻々と変わってきており、そうした変化に対応できる人材が必要になってきています。知財部では昨年からの組織風土の改革に着手しています。これは、2030年に向かって、会社の継続的な利益創出のための知財活動はどのようにすべきか、また、やりがいのある仕事にできるのか、といったことを知財部員一人ひとりが考えるようになることを目指しています。2030年に向けたロードマップとしてまとめ、定期的に見直すことで、誰かに言われてではなく、自らが、アンテナを高くし、先読みし、“Your Dreams, Our Challenge” を実現できるようにしていきたいと考えています。



UVベールイメージ



所属企業が全員参加する価値ある部会活動を目指して！

JIPA正会員の1/4が所属する最も大きい業種別部会が関東電気機器部会(東電)です。所属する会員はさまざまで、グローバル企業から知財部員数名の企業、最近ではIT系、サービス系、金融系、〇〇総研といった会員も増えつつあります。

行事は6月、9月、10月、12月、3月の年5回です。一番のおすすめは毎年9月に開催する東西合同の宿泊部会でしょうか。参加者は70~100名、会員代表だけでなく、幅広い年齢層、知財歴の方に参加頂き、参加者間の交流をはかれるよう工夫しています。2019年度はマツダ様にご協力頂き、広島で開催いたしました。知財活動のご講演、工場とミュージアムの見学、そして、厳島神社を臨むホテルでの懇親会などを通して、知財教育、IPランドスケープの手法、知財活動における悩みなど多くの情報交換がなされたことと思います。

本年度はCOVID-19の影響で、残念ながら第1回部会は中止しましたが、10月

の異業種見学会、会員数が多いことを活かして、3つの講演会を同時並行して開催する12月の部会などの準備を進めています。12月の部会は東電だけのスタイルですが、様々な業種、また、普段の部会では出席の機会が得られない知財部員の方々の出席を促す工夫です。

特許をはじめとする知財環境は、法律、戦略、分析ツールなど、過去には考えられないスピードで目まぐるしく変化しています。ビジネスにおいては、知財スキームいかんで成功や失敗に繋がる非常に重要なファクターとなっています。部会を企画・運営するのは各社が出して下さる幹事ですが、東電所属企業のニーズを充たすため、見学先、講演テーマなど選定を進めています。初めて参加しました！という企業が増えることを目指しています。

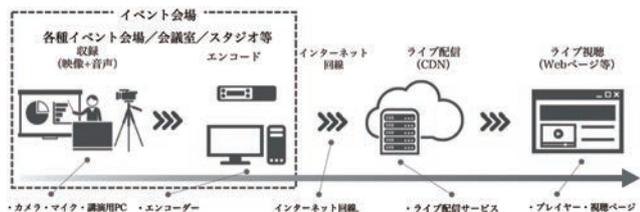
最後に、部会運営には幹事の存在が欠かせません。知財の世界では「知財教育」が議論されていますが、私は「業種別部会の幹事を経験する」ことが、日常業務では味わえない貴重な経験となり、最高の知財教育になると強く実感しています。今後、積極的に手に挙げる企業が増えれば、知財業界全体がますます発展するでしょう。そして、これからも東電の活動に積極的にご意見・ご要望をください。所属企業全体で東電を盛り上げていきましょう。



2019年度第1回部会・講演会

JIPA通信 オンライン研修の紹介

テレワーク/リモートワークや社会的距離(ソーシャルディスタンス)を考慮した研修として、オンライン研修(PCライブ研修)を立ち上げました。講師が配信会場からライブ配信する講義を、受講者は、(職場/自宅から)PC・タブレット端末・スマートフォンで受講できます。特別なソフトは不要で、お使いのブラウザで簡単に受講できます。今年度は臨時研修会を中心(3~4コース/月)に、PCライブ研修を開催致しますので、多数の方の受講をお待ちしております。



表紙の写真は…

「マッターホルン山麓」

株式会社フジクラ
 知的財産センター 知的財産渉外部 伊藤 圭

2019年8月にスイスで撮影した写真です。スイスは国土を山に囲まれ、天然資源に恵まれているとは言い難い小さな国です。一方で、勤勉な国民性と高い技術力を背景に、幅広い産業で高い国際競争力があり、一人あたりのGDPは世界トップクラスの水準を誇っています。また、美しい国土を利用して、観光業も盛んです。さらに諸外国からの信頼も厚く、WIPOも含め様々な国際機関が拠点を置いています。人口減少時代を迎え、労働生産性の維持・向上などが大きな課題となっている日本も、国の将来像について参考にするべき点が多いのではないのでしょうか。

本誌では、季節感があり、技術、特許、知財に関連がある表紙写真を募集しています。写真と説明文を [会誌広報グループ kikansi@jipa.or.jp宛](mailto:kikansi@jipa.or.jp) にお送りください。また、取り上げて欲しいテーマがあれば、お気軽にご連絡ください。